

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【開催日時】平成23年8月23日（火）

13時30分～15時30分

【会場】千本プラザ 音楽ホール

1 出席者

- ・ 発言者 沼津市において様々な分野で活躍されている方

6名（男性4名、女性2名）

- ・ 傍聴者 163名

2 発言意見

	項目	頁数
発言者 1	海岸線の清掃	4
1	防犯灯のLED化	4、5
2	本の読み聞かせ運動	6
3	消防団員の確保	9
4	今後の農業に支援を	10、11
6	まちの活性化に支援を	20、21
5	地域コミュニティの重要性	32
1	農業の総合的支援を	32、33
傍聴者 1	沼津駅鉄道高架事業	36、37
2	東海大学の跡地利用	37
3	沼津のランドデザイン作成とインフラ整備を	38
4	里親家庭の実態を知ってほしい	38、39
5	大学の設置	39、40
6	沼津を一流に	40

<知事挨拶>

皆様、こんにちは。

私が知事に就任いたしましたして2年と2カ月ほどたちました。以来、ことしの5月末まで東部全体でも100回ぐらい来ているんですけども、さっき5月の末までの記録があるというので公式訪問で沼津に何回来ていますかと聞いたところ、事務局から25回来ているということでございました。したがって、一月に1回余り来ているということでございまして、しかしながら、こうした形で皆様方の代表の方々の御意見をしっかりと拝聴するという機会が今までにございまして、それできょうは6人の代表の方々にこちらに来ていただきまして、そのお話をしっかりと承るというこういう機会をいただいたことを大変喜んでおります。また市長の栗原市長さん、そして県会議員の杉山先生、蓮池先生、多家先生、曳田先生も御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

きょうはこちらに来る前、世界一のコンピューターをつくった富士通の沼津工場がありますので、そちらを見てまいりました。有名な「京（けい）」というコンピューター。ともかく世界の地で日本の力を出していくという、それがございまして、東名のすぐそばの公園のような美しい工場を見てまいりました。

このようなコンピューター、これをどのように駆使していくかということがこれから課題です。これはいろんなシミュレーションができるわけですね。例えば津波が来るといった場合に、どのような津波が来るであろうかと。これはどのような津波が来たかという経験から、何メートルぐらいの津波がここまで押し寄せてくる可能性があるというそういうこれまでのやり方に対しまして、ここでマグニチュード9ぐらいの地震が起こったら、津波が何分後にどういう形で押し寄せてくるかということコンピューターで計算できるわけです。しかもそれを図示できるわけです。

あるいは、すぐ近くに長泉の有名な、世界的にも有名になりました県立のがんセンターがございまして、体内の、例えば一番複雑な動きをするのが心臓ですけども、その心臓をCTで撮りまして、それを血管の中に静脈、動脈、どのように血液が流れるかということもコンピューターでできるんですよ。これ世界一ですから。ですから手術する前に、ここをこういじれば、こういう影響が出てくるということもできるんですね。ですからものすごい実は技術的資産がすぐ近くの沼津の工場にあると。そして、その工場長、あるいは研究所の代表の方も、ぜひ沼津でそれを生かしたいんだというふうに言われておりました。

それを見てまいりまして、そしてまた昨日、一昨日と大雨が降りまして、大変心配でござ

ございましたので、沼川を見てまいりまして、特にそこに入り込んでいる一番長い川が高橋川ですが、その高橋川、これは沼川の上流のところで溢れますと、下流にも影響を及ぼしますので、これをどのようにして洪水が起こらないようにするかということで、今までこの問題は長く心配をされ、議論されてきたんですけども、もう方法も含めて考えようということで、その現場を見てまいりまして、間もなく識者の報告が出ますので、それに基づいて皆様方の御意見を聞いた上で、洪水に見舞われないようにしようということでございました。

それからもう一つ回ることができまして、それはこのすぐ近くの狩野川の向こう側のところに「ミルクィウェイ」という重度障害者の方々の施設ができました。これは沼津市の市有地だったところに沼津市のみならず、10の市町の方々が、ぜひ身体障害を持っているお子さんや家族の人たちのためにそういう施設が欲しいということで、すばらしい環境のところで皆さん方が食事をされている、その現場を見せていただきまして、いいものが誠にできたということで、さすがは沼津だなということを感じることができましたところ、皆さんが既にお昼ごはんを前にして待っておられましたところ、富士山弁当という一富士二鷹三なすびを食材にあしらった最高級の、すみません、ちゃんとお金払っていますけれども、弁当を皆でいただきまして、ワンクッション置いて今こちらにきた次第でございます。

きょうは私はしゃべるといよりも聞き役に回りまして、6人の地域の皆様方からしっかりとお話を承って、それを沼津の発展、また県政の発展に生かしてまいりたいと、そのように思っておりますので、何とぞ時間の許す限り、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

< 発言者 1 >

私、塩満自治会で平成19年の12月からまちぐるみで温暖化を防ごうということで、NHKの「ご近所の底力」この番組を通じて、約2年間NHKと一緒にまちぐるみで温暖化を防ごうということをやってまいりました。その間にいろいろあったんですが、やっとここに来て、やはりその温暖化を防ぐというか、エコ活動というのが浸透してきたかな。しかしまだまだ沼津市全体で見ると、なかなかそこが地域に行き渡っていない。

昨年、地域エコリーダーという方が連合自治会に28名いらっしゃるんですが、ここに来て、この方たちもやっとそういう運動の大切さということがわかり始めたということで、

今月2カ所、やはりこういうエコ活動をどうしたらいいかということで、一応講演を頼まれています。そういうところに行って、いろいろとまた御説明をしたり、やっていきたいという考えを持っています。たまたま栗原市長が当選されて、エコに対して、エコのまち沼津をつくろうということで、いろいろ活動を手助けしていただいて、やっとここ沼津市も機運が盛り上がってきたかなという感じがします。

そういった中で、きょうは環境の問題ということでお話をちょっとさせていただきたいんですが、一昨年、沼津市の環境基本計画というのを策定いたしました。その中でいろいろと、そのメンバーがこのまま解散するのはもったいないということで、皆さんで「エコネット沼津」ということをつくり上げようということで、「エコネット沼津」をことしの2月につくり上げました。

いろいろ問題点、沼津の問題点、そういったことをたくさんあるんですが、私きょうの川勝知事とのこういうお話の中で、二つ問題点を取り上げたいと思うんですが、一つは沼津市には約62キロぐらいの海岸線があるんですが、これが非常にこの沼津市だけの問題ではなくて、川上から、やはり漂流物が非常に流れていると。海岸線そのものが非常に汚いということで、こういう観光都市にしては、こんなごみが散らかっていていいのかなというぐらい汚いときが非常に多いです。

これは一つは国の補助事業というのがありまして、地域グリーンビューティー基金というのがあるんですが、これを利用して、ほかの自治体はやはりそういった機械を導入しながらビーチクリーン作戦というのをやっているということで、ぜひ、これは沼津市は政令都市ではありませんから、特例市ですから、沼津市そのものではできないんですが、県が申請をすることによって、地域グリーンビューティー基金というのを利用して、こういう海岸線、62キロの海岸線が清掃できるのではないのかなということが一つ御提案と。

もう一つは、やはり家庭から非常にCO₂が非常に増えてきているというのは、世帯数が増えてきているということで、それと家電の大型化といった問題が山積しているということで、やはりCO₂が一般家庭から出てきていると。これについても、やはり一つは我々の身近な防犯灯、防犯灯がLED化できることによって、ひょっとしたら、このCO₂を大幅に削減できるということで、例えば今沼津市は約1万6000灯防犯灯があるんですが、これをもしLED化すると、大体試算でいきますと350トンぐらいのCO₂が年間で削減できる。補助金も沼津市からいただいているんですが、それもLED化することによって補助金も要らなくなるということで、非常にこういったことも含めて、県全体、または東

部地区、そういったことで地域ぐるみでそういったLED化にできないかと。そのLED化というのは、ESCO事業とか、そういった環境省とか経産省を通じてできる事業がございます。こういった問題をうまく利用して、やはり地球温暖化ストップということでやっていけば一番いいのかなというふうに感じています。そういうことでよろしいでしょうか。

<発言者2>

私、沼津市にありましたイトーヨーカドー子ども図書館が、一昨年9月に閉館になるに当たり、残したいというたくさんの方の声がありましたので、その声をまとめて市の方に、沼津市で何とか子ども図書館を引き継いでいただけないだろうかということをやりましたのをきっかけに、子育て支援課さんがいろいろ絵本というか、子供と本の関わりということで、いろいろな事業を始めてくださって、その端っこに加えていただいております。

もともと結婚前は住宅の設計の仕事をしておりましたので、のこぎりを持っている方が、本を持つより好きなんですけれど、それでも沼津に県外から越してきたんですけれど、沼津のすばらしい海と山と、それから広い空と、こんなまちに越してこられて幸せだなと思っていて、それで千本の近くに、すぐそこに住んでいたものですから、千本の海も小さい子を連れて、よく散歩に毎日行っておりました。

それで、そのほかにお出かけするのにとってもいい場所だったイトーヨーカドー子ども図書館、これを何とか引き継いでいただけないかということで、市長さんのところにもお願いに上がったり、皆さんにお願いして、あと市内の全部の幼稚園と保育園、ほとんどですけれど、回って、皆さんの声を集めて届けさせていただきました。

そうこうしているうちに、子供と絵本、お母さん、お母さんでなくても、子供の育ちにかかわる大人たちの仲立ちとして絵本というものが入ってくると、優しい言葉かけ、それから美しい言葉、そんなものが大人と子供をつないでくれる。普通に語りかけたり、歌いかけたり、そんなことが一番いいとは思いますが、その中の一つとして本という大事な媒体でしたっけ、支援局長さんが教えてくださったんですけれども、子供と本をつなぐ、大人と子供をつなぐための「道具」と私が申し上げたら、「媒体ですね」とおっしゃってくださって、あっそうですねと思いました。

そんな絵本を親子の間につなぐ媒体として、何とか皆さんに普及していきたいななんていうふうに思って、ブックスタートやブックステップ、それから子ども図書室を引き継いでもらった駅前にある商連会館という建物の中に、子ども図書室を引き継いでいただいた

その中にあります子ども図書室「パタポン」のパタポン友の会という図書室を盛り立てる会の代表をやっておりまして、みんなで読み聞かせの会や、ちょっとしたイベントなんかをやっていきたいなというふうに、今は読み聞かせだけを月に2回、第2・第4日曜日にやっております。そんなことで親子の居場所として、それからつなぐものとしての絵本図書室をこれから育てていけるような運動に携わっていただけたいなと思っております。

<発言者1、発言者2に対する知事コメント>

まずお二人のうち発言者1の方から、地域のエコのリーダーとして、地域ぐるみで塩満の自治会のリーダーとして、塩満がエコタウンとしてよく知られるようになったその御仁といたしまして敬意を表します。それで、本県全体で500キロ余りの海岸線があるわけですが、その中で沼津だけで62キロあると。そして千本松原をはじめ、非常に美しい景観のところが今汚れているということなので、これはやはり何とかしたいというふうにおっしゃっているのはもっともなことだと思います。

今海岸だけでなく、例えば富士山ですね。その富士山も御承知のように世界自然遺産にしようということだったんですけれども、見に来られた方々がごみが落ちているからということで、そのごみの清掃活動が始まりまして、今少なくとも登山道の近辺においてはごみがほとんどなくなりましたですね。これはやはりいろんな方の、特にボランティア活動、例えば登山家の野口さん、ああいう優れた青年登山家が先頭に立ってなさって、それに皆さんが共鳴されて、静岡県、あるいは山梨県、あるいは全国の方々が参加し、そして登山道以外のところに今その活動を広げておられるわけですね。ですから今は山も、それからこういう海岸についても、例えば千本松原と匹敵するであろう三保の松原のところでも、地域の方々の松を植えることと同時に、清掃活動をされておられて、汚れていると、また汚していくことになっていきますので、しかし一方、今漂流物がきているというのは、これはなかなかのことです。

実はこちらの西海岸の方だけでなく、相模湾の東伊豆のところ、うちが汚しているんじゃないんですよ、静岡県が。神奈川県なんですね。(笑) あそこから海流が全部こちらに。この間も、昨年9月の台風のときの大雨のときにも、向こうのものが全部こちらに流れてきて、それを我々の方で拾うと。しかしどちらのごみだと言っているときではなくて、やはり静岡県下に入ると、特に沼津に入ると、その海がきれいだと、あるいは海岸がきれいだと、そこを散歩してみたくなると。あるいは牧水じゃありませんけれども、歌を歌い

たくなるというような、そういうことが大事だという問題提起として、これはエコのまちを掲げられている栗原市長さんの施策に共鳴してのことですので、私はこれは広がるであろうと。500キロ全部海岸をきれいにしていくという中で、これを沼津から始めていくという、そういう運動を起こすための、先ほどグリーンビューティーとおっしゃいましたが、けれども、そうしたものを使わなくても何かできる方法を一緒に考えてみたいというふうにした次第でございます。

それから防犯灯が1万6000灯あるということですが、実際に使われているやつをすぐに換えると何かもったいないですね。ですから電灯が切れたところから、ちょうどその規格が合うのでLEDのものになるならば、当初の投資は少し高くなるかもしれませんがけれども、LEDに変えていくと、当然長持ちしますし、電気代は安くなりますし、そしてCO₂も出しにくくなるといういろいろな効果が出てきますので、ぜひこれは防犯灯が明るく、しかも安上がりで、それはエコを考えた沼津自身の取り組みだと。1万6000灯のうち、だんだんとLED化が進んでいくということが、その何か日々どこかで出てくると、単に防犯灯だけでなく、LED化への弾みにもなるだろうというふうに思いまして、この防犯灯におけるエコ活動、それから海岸におけるエコ活動、両方とも皆公共のものにかかわるところで問題点を指摘していただいたというふうに、これは大変貴重な御意見だと承った次第です。

それから発言者2さんのお話は大変子育てにとっては重要でございまして、イトーヨーカ堂の子ども図書館を引き継いで、パタポンという図書室を今リーダーとしてなさっておられるということですが、読み聞かせるというこれをするのは、単に子供にとっていいだけでなく、確実に大人にとっていいはずですよ。ですから、我々は最近本を黙読をしますね。黙って読みますけれども、これはつい最近のことです。つい最近と言っても、近々100年余りということですがけれども、それ以前は必ず音読していたわけですよ。「読書百遍意自ら通ず」というのは、音に出して言う、声に出して読むということをしてきたと。それをしなくなって、大正期以降、そういうふうになったんですが、もう一度原点に戻ろう。大きな声を出して、そしてわかりやすく、ハートを込めて、子供のために読んで聞かせるということが大事だと思います。

そして、その図書館を引き継ごうという志がいいと思います。といいますのは、実は余り言いたくないんですけども、はっきり言いますと、静岡県は本を買わないんですよ。38位とか、ものすごい低いんですよ。本屋さんの数も少ないんですよ。それでびっくりした

わけです、そんなはずがないだろうと。それで本を読む運動を起こしたいというふうに今私は思っておるところなんです。そうするためには小さいときから、大人も子供も本に親しむ必要がある。ただ、静岡県の名誉のために言っておけば、図書館とか、あるいは図書室とかいうものを利用した貸し出し冊数というのは全国10位前後だったと思います。いずれにしても、余り高くないんですよ、全体数でいくと。申しわけありませんが。

それで僕は、こういう絵本もパタポンで、しかしもし本当に心に残るものがあつたとすれば、それを子供のときの思い出、あるいは母としての思い出として家に備えるということもあっていいと思います。ですから小学校入ったときには小さな本棚、中学校、高校のときにはちょっと大きな、もっともこれは部屋の大きさとか、空いているところだとかいうことがありますけれども、本を入れるための本棚から始めると。そうすると今木材がたくさん余っていますから、ですから他地区の本箱じゃなくて、できれば地元の木材を使った本棚が家の中に、少なくとも子供のときにお父さん、お母さんから買ってもらったとか、おじさんからプレゼントしてもらったとか、そういうふうな本を愛するそういう文化を育てたいと。いわばその最初の一步を今お聞きしたというふうに思っております。

第2・第4日曜日に定期的に自分の家族のお休みのときに、それを月に2回、読み聞かせのそういう運動をされているということで、これが全体としてよく本を読む人がここにいるという、ここは江原素六が住まれたところでもありますから、そういう文化の高いところなので、この文化はぜひこちらが育てたいと。発言者1さんの方は外の環境について言われました。そして発言者2さんの方は心の環境について言われまして、両方とも感じ入って聞いたという次第でございます。とりあえず感想を申し述べました。

<発言者3>

ただいま御紹介をいただきました沼津市消防団長を拝命しております発言者3でございます。本日はこのような機会をいただきまして、まことにありがとうございます。

早速ですが、沼津市消防団の概要からお話をさせていただきます。条例定数999名、沼津市を5ブロック13方面隊40分団に分けてございます。プラス女性消防隊「紫明隊（しめいたい）」と申しますが、プラスラップ隊で構成をしております。消防団員は「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護精神に基づき、日々災害と対峙し、地域防災の要として、地域の安心安全の確保に尽力しています。

しかしながら、昭和27年当時200万人以上いた消防団員は年々減少の一途をたどり、

平成2年にはついに100万人を割り込み、今なお減少が続いています。国や県を初め、市町村においても、テレビ、新聞及びラジオ等の媒体を通じて、消防団の置かれている現状等を訴えているところですが、消防団員の確保にはつながっていないのが現状であると思います。

3月11日の東日本大震災以来、地域の皆様の消防団への期待がさらに大きくなったことは感じております。私たちもさらなる訓練を重ね、強い消防団を目指していきたいと思っております。

静岡県におきましても、東海地震が予測され久しいところですが、防災関連予算も2兆円を超えた額が投入されたやに聞いております。当沼津市におきましても、大きな被害が予想されております。東海地震、東南海・南海と、3連動も起こり得るとの予想もあり、60キロを超える海岸線を持つ当市も、津波に対する避難訓練は中身の濃い訓練をしているところですが、特に3月11日の東日本震災後、避難場所をもう少し高台に移動したり、歩いての避難を走っての避難にしたりと、以前より短時間での避難訓練を行っています。

避難施設、避難場所の見直し、避難路の地震により通行不能となった場合に備え、別ルートでの避難路の確保が必要なのかなと思っています。災害対応については正解はないのかもしれない。しかし、正解に一番近い対応を地域に土着した消防団として模索をしてみたいと思っております。以上です。

<発言者4>

私は先ほど川勝知事が富士通のところを回って、とてもきれいだっただっておっしゃってありましたあの下でお茶とお米を作っております専業農家の農婦です。120キロの製茶工場と4台の乾燥機を備えたライスセンターを、夫と私と3人で16ヘクタールの田畑を耕作しております。夫も私も認定農業者です。そして私も農協の正組合員です。

昭和58年に沼津で初めて献上茶が行われたとき、我が家の茶園も指定茶園になりました。そのときに手揉保存会ができました。そのとき夫は手揉保存会に入会しまして、私も平成11年から入会して、いろいろなイベントや、それから小学校の体験教室などに参加しております。小学校の体験教室では、子どもたちがとっても生き生きとお茶に触れ、そしてお茶がおいしいと言ってくれています。お茶離れのことをいろいろ言われていますが、お茶を使ったお料理、それを給食に出したときも行かさせてもらいましたけれども、そのときも子どもたちはお茶を何杯もおかわりしていました。もっともっと飲んでもらい

たいと思います。

毎年3月に行われております沼津のお茶の祖であります江原素六先生の銅像にする献茶のお茶も私の家で作らせてもらっております。

お茶とお米はいろいろな品種があるのを御存じですか。うちは16ヘクタールの田畑を雇用なしで耕作していますが、これらはいろいろな品種を組み合わせる作業を分散し、クリアしています。

農業をされていて残念なことは、農家が農業製品、農産物を自分の値段をつけられないことです。県や国では六次産業化といって、農家も付加価値をつけて、加工して販売するように勧めていますが、専業農家では、女だからといって、そういうものに関わっている余裕がありません。現に私もダンプを運転して、田植え機、コンバインを操作しています。先ほど知事がおっしゃいましたあの沼川の上、しょっちゅう水に浸かるあの田んぼを秋になると毎日作業している女の人が見えたら私だと思ってください。(笑)

今、沼津の農業は後継者がかなりいます。彼らはやる気があるし、勉強も一生懸命しています。でも何というのかしら、今儲かる農業じゃないんですよね。だからとても悩んでいます。家庭菜園をされている方はわかると思いますが、農業製品、今の日本の食糧は高いと思いますか、安いと思いますか。経済抜きに農産物を作るということはとても楽しいことです。でも私たちが普段仕事をしていて、草取り、今の時期、ちょっと目を離すと、草や虫がいっぱいきます。でもその草や虫を駆除したり、草取りを毎日する、その労賃というのは無料奉仕です。ほとんどその農産物に転嫁できません。

今の人たちは賞味期限、消費期限、形や味、いろいろ生産者に対しての注文は多いですが、人間も動物ということをおぼわすに忘れているんじゃないかと思っています。そういうものを気にしないで、自分の五感で判断してもらいたいと思います。農業者の人たちはそういうことに昔と違っていろいろ気を遣い、縛られています。農業を取り巻く環境はすごく厳しいです。でも私たちがその中で我慢して、一生懸命今の時期、暑いこの時期に頑張っているのは、やはり自然の中で働くということが楽しいからです。

何というのかしら、世界中が今汚染されていると思うんですよね。それなのに、この間のような放射能汚染、静岡県では大丈夫だといっても、やっぱり風評被害がありました。我が家のお茶も返されてきました。もっともっと自分たちの五感を大切にして、人間であるということは動物であるということをおぼわすに子どもたちにも教えていきたいなと思います。

私は90と84歳の舅を抱えています。まだ元気に草刈りをやってくれています。車も

運転しています。そして31歳の息子が跡を継いで、孫も5人います。そのサンドイッチ世代の私がこういう場所でお話できることがすごく光栄だと思っています。

なぜならば、昔はつくれば売れた時代だった。そしてバブルのころは農家が土地成金で、あっちこちに御殿ができたり、サラリーマンの人から見ればうらやましいような生活をしてきた時代、そういう時代をしっかりと見てきた世代だと思います。これからの息子たちの時代は、外国との競争、機械化しなければやっていけない時代、その機械代も出せれない、とても厳しい今の農業価格、そういう息子たちのやる気に支援してもらいたいと思います。ありがとうございます。

<発言者3、発言者4に対する知事コメント>

発言者3さんと発言者4さんから、それぞれ大変立派なお話を承りました。発言者3さんは沼津市の消防団の団長として、大変高い使命に燃えておられるということがよくわかりました。ただ一方で消防団員が今激減しているという危機感は、私も共有しているところです。しかし、このまま放置するわけにはいかんと。なぜか。3.11のあの震災で消防団員の方々の御活躍は皆が知っているとおりです。あるいは、つい数日前、天竜川で5人の方が亡くなられましたけれども、そのときの救出活動、あるいは御遺体の発見についても、消防団の方々が日夜を徹して探されたというふうなことでございまして、日々の安全については消防団の存在抜きにはあり得ないと。また消防団というのは、一方で地域のコミュニティの核になっておりまして、それを抜きにして地域コミュニティはないとも思っております。

そうした中でどういうふうにして消防団に若い方々に入っていくかということで、今サラリーマンの方が多くなっていますので、企業にその御理解を賜わるという運動をしておりますと同時に、また県下には20近い大学がございまして、ちょうど元気盛りの青年たちに消防団活動に入っていくというふうなことをしているところで、この3.11の大災害をきっかけに、消防団員の存在の重要性を訴えていく、そういう機会にしたというふうに思っております。

それについてどういう工夫をすれば増えてくるか、このあたり、まだ模索中ですが、増やしていかなければならないというその気持ちは同じで、これを抜きにして、いつ襲ってくるかわからない東海、あるいは三連動の地震に備えなくちゃならないということで、特に本県は防災先進県として、きょうも来ていたんですけれども、中国から、中

国の浙江省と本県は御承知のように29年間の交流関係がありまして、昨年初めて共同で防災会議をしたら、彼らは防災というのは、地震が起これば土嚢と、それから医薬品とテントを持っていくということだけだったんですね。

ところが我々は東海地震が1976年、昭和51年に唱えられて以後、もう30年以上にわたって毎月のように何らかの訓練を県の方でもやっておりますが、ですから防災のレベルが天と地ぐらい違うわけです。だから彼らがびっくりして見に来られているという状況でございます。

一方、岩手の方で助けてくれというふうに言われまして、我々は遠野を軸にして三陸地域に、沼津市からもそうですけれども、35市町の職員の方や県、あるいはボランティアの方々とともに助けておりますけれども、これほどの見事な防災救援活動にしてくださっているのは知らなかったというふうにして、遠野市、あるいは八幡町、つい3日ほど前に2回目の訪問をしたんですけれども、山田町長の沼崎さん、また遠野市長の本田市長から、感謝とともに感心をしているという敬意も表されたんですが、やはり防災先進県としての自覚を持って、我々としては消防団も含めて、防災については人的な支援をしっかりと整えるということをややはり内外にしっかりと示していかなくちゃいかんという使命があると思っ

ているわけでございます。そうした姿勢をもう少し具体化するためにどうしたらいいかということについて、今模索中だということでございます。

発言者4さんのお宅は家族で16ヘクタールという、恐らく沼津の最大規模じゃないかと思っておりますけれども、田畑、お茶とお米を栽培されてこられたということで、まずは敬意を表します。おじいちゃんとおばあちゃんが90歳と84歳でお元気なのは、作っているものいいというのと、やはり農業をするということが、長生きの秘訣であるということではないかというふうに思っております。

日本の人口の8割9割がずっと農民だった。それが近々、それこそ音読をやめて黙読をするようになったころから急速に皆サラリーマンになっちゃって、今のような都市社会になってしまったわけですが、一方、都市社会の方では、こういう不況の中でクビ切りがなされて、マンションに住んでいたところでローンがある、あるいはローンを払い切っている、今度は管理費が払えない。管理費を払わなくちゃいけませんね、自分のマンションであっても。そうするとそのお金がないと、食べるものが買えないわけです。初めて土とか緑とか水とかという大地に根ざすということが大切だということに気づかれるようになって、急速に、やれ市民菜園だ、家庭菜園だ、あるいは山村留学というふうに、都会が目

を、今までは田舎が都会を見ていたわけですが、都会が田舎を見始めているわけですね。ですから時代は必ずしもずっと厳しい状況のままに来たのでもないというふうにも思っております。

さりながら、農産物価格というものが他の価格に対して低いので、きちっとした所得が、しかも安定した所得が保証されないというのが日本の農業の現実で、そのために若い人が農業から離れていくという状況になっています。しかし一方で、日本の食糧の自給率、これがカロリーベースで40%だと、これは大変だということの共有は今されるようになって、農業への見直しが始まっていることも事実です。

そしたらどうしたらいいかということで、私は農業というのは今、これはJAに持っていく、あるいは卸から大田市場なり、あるいは築地に持っていくというような、東京に持っていくということに、作ってそれで終わりということではなくて、ここに三百七十数万人の人們が住んでいるわけです。その食糧自給率はカロリーベースでは18%です。価格ベースで、お茶・ワサビ入れて70%です。ということは、いろいろなもの全部作っていますよ。お米もお茶もワサビも、それから農産物だけで167種類、海産物を入れると219種類、日本一なんです。それでどうして自給できないのか。一方で外国から買っている。あるいは東京からまた買い戻しているということが起こっているの、流通の組織も変えることが必要じゃないかというふうにも思うんです。

ですから持っていったら、その分運送費がかかります。持っていけば、トラックのCO₂の排出が出ていますので環境破壊しています。その分、価格に流通費がかかっていますから、運送費がかかっていますので、より高くなっていくということになっているので、決してよくないというふうに思いますので、私は言葉としては余りなじまないかもしれませんが、そういう農業という一次産業と、運送や加工の二次産業、それからそれをサービスとして売る三次産業、こうしたものが全部合わされば、1+2+3で6になる。1×2×3でも6になる。

だからこの一つの国をここでしか作れないと、ほかのどこにもなくて、ここでどのように生きていくかということを考えるというふうには、少なくとも頭の体操として、今、西は浜名湖から東は箱根、北は富士山、そして南アルプス、そして伊豆半島の向こうの太平洋、ここに囲まれた一つの孤立した時代だとすればどうしたらいいか。少なくとも370万余の人們が生きていくために食べなくちゃいけない。その食べるものは少なくとも春夏秋冬全部ここにあるじゃないか。じゃここで賄うことができるかどうかやってみよう

というような試みをするべき時じゃないかと。東京に持って、東京も1200万、あるいは首都圏の三千数百万の人たちのために我々は存在しているわけじゃないでしょう。

ですからまずは、もしものときに自分たちのどこのものがどういうルートを伝わって自分たちの食卓にのぼっているのかということを知っておいた方がいいということで、この地域内で「ふじのくに」という自立した国をつくろうと。そして一番大切なのは水と緑、あるいは大地だと。それに根ざさないようなことは大地に対して申しわけない。

そしたら、お米とかお茶とか言われながら、実際は1万2000ヘクタールもの大地が耕作放棄地になっている。それは全耕作地の18%にも上っているということで、これは大地に対して申しわけないと思うべきだというわけで、使わないなら、もう10年間誰も使っていらっしゃらないならば、条例でそれはJAなり、あるいは県なりが借り上げて、そして又貸しする。ただし農地以外には使わないというふうなことすらできるんじゃないかということで、私はこの間TPPの会議のときにそういうようなことを言いました。やっぱり今、大地への回帰が始まっていると。そして農水省の役人が自給率を上げようというなら、あなた方が実際に北海道や東北や北陸や九州に行って、霞ヶ関の中から出なさい、口だけで自給率を上げようというようなことを偉そうに言うなというようなことを、もう少しきれいな言葉で言っていたんです。(笑)

ともかく今大地への回帰をするべきときに来ているというふうに思っているわけです。差し当たって、小野さんのいらっしゃる場所は富士通の工場があるんですが、そのすぐ北のところには新東名が走ります。御存じでしょう。あれ引佐から御殿場まで160キロ余り、一挙開通ですよ、来年。来年中ということになっているんですが、何としてでもお盆前にと思いますが、そうするとそこにSAができますよ。そうすると、そこにサービスステーションというか、パーキングエリアとか、そうしたものが幾つですか、13もできる。しかも、たしか沼津のところは上り線と下り線の建物が非常にしゃれているはずですよ。しゃれているんです、見てきましたから。ただし設計図だけですけど。(笑) 絵が書いてある、そこに行けば。

そうすると、そこに来る人が単に休憩だけでなく、そこに来ることを目的に来られるようにすることもできるでしょう。それですから、そのときに共同して沼津のSAではこういうことをしていると、あるいは西の方の森町ではこれをやっている。それぞれ地域の特産物も違うし、季節によって違うものがあると。それで全体で百六十数キロが、いわば農芸品と申しますか、あるいは海産物を含めた食材街道とでも申しますか、そういう

街道として、景色もきれいだし、そして休めるし、そしてずっと下に降りれば沼津に来れるし、あるいは富士山の方に行くこともできるというふうな、そういう幹線道路が今できつつありますので、これを単に通るための道路ではなくて、人々の楽しむための道路としても使うことができると。

そしてそうしたことをちょっと念頭に置いていただいて、私も特に発言者4さんが沼津の代表の農家だと、きょうここにいらっしゃるので、農園のお茶、これは献上茶でもあったということでございまして、それからまたいろんな品種で最高の品種のお米やお茶を作っているらしい。

実はここにパンフレットがあるんですが、これはさっき食事しているときにいただいたものなんです。これは市長がおつくりになった？原の商工会がおつくりになった。これは英語と日本語で書いてあるんですが、富士山と大瀬崎ですか、沼津から見える景色が出ている。後ろにお茶の飲み方が書いてあるわけです。この英語がすばらしいんですよ。私は英語は書けないんですけども、いいかどうかはわかるんですね。それでよくできた英語で、日本語に十分に匹敵する、日本語をさらに敷衍して書かれている。

ですから国際的に売り出すつもりでこれからは世界の文化遺産になります、富士山。したがって韓国の方も、中国の方も、それから欧米の方々もいらっしゃいますので、もう世界の沼津です。東京のための、東京から100キロのところにあるという形の、そういう沼津の位置づけをやめて、東京からは100キロあるけれども、世界の沼津、日本の中心、富士山の麓で、牧水が愛し、江原素六の先生の名前も出ました、江原素六献上茶、その誇りを持ってすばらしいお茶をしている、そしてお米もおいしい、海産物は言うまでもありません。そうした世界の中の桃源郷としての沼津という位置づけを一緒に持とうではないかということですね。

ですから港、ちょっと話が言い過ぎると、また後で叱られます。この辺でやめますけれども、とにかくここは相当いい素材があると。あとその組み合わせの違いを考えるべきときに来ているんじゃないかと。ですから私はまだ発言者4さんは40代？息子さんが30代でいらっしゃるから、それより2～30は上でいらっしゃいましょう。そしておじいちゃん、おばあちゃんは80代、90代ということでございますので、まだまだうら若きという、家族にとってはそういう年代ではないかと思っておりますので、これからますます元気に息子さん、またお孫さんと一緒に、ここに農園ありということで頑張ってください、我々もその農園の産物を楽しんでいただくというふうにしてまいりたいと思った次第でござい

ます。大変感心いたしました。

<発言者4>

ありがとうございます。

<発言者5>

こんにちは。私は生まれも育ちも沼津、原になるんですけども、皆さん、沼津好きですか。ここにいらっしゃる方は興味、関心があられると思うので、もちろん大好きな方だと思うんですけども、自分もやはり沼津が大好きで、沼津の街を日常毎日楽しんでいたら、いつの間にかこのような場に立つようになってしまったんですけども、その中でもきょうお話しできればなと思ったのが、沼津市内で日ごろ自分が見た中でいろんな感動を多々覚えたものですから、それを皆さんの前でお話しできればなと思って、今回お話を受けさせていただきました。

自分がしてきたことというのはすごく単純なことで、沼津の街で楽しんだこと。おいしいお店だったりとか、各種イベントだったりとか、自分干物開いたりするものですから、その干物を開いたところで、包丁屋さんで包丁を買ったこととかというものをブログの記事に書いて掲載をしていたんですね。それをほぼ毎日書いていて、1人、2人どんどん増えていって、一番ピーク的时候で毎日750人、年間で約20万以上を超える方々が自分のブログを見てくださっていて、楽しんでいる様を喜んでくださったわけなんですけれども、そんな中、自分は情報発信が、それをやっていくうちに楽しんで、いろんな仲間ができたりとか、交流を深めていく中で、情報を発信していくことがまちを元気にすることかなんていうふうなことを思っていたんですけども、そんな自分にやっぱ転機というのがいろんなところで波が出てくるんですけども、一番の転機が2007年、もう記憶も新しいと思うんですけども、沼津市で技能五輪国際大会が行われたと思うんですね。

皆さんも記憶が新しいと思うんですけども、自分も情報発信していく中で、技能五輪ちょうど1年前ですかね、よさこいを自分お手伝いをしていることもあって、それが1周年前のイベントを沼津駅だったりとか、あゆみ橋でイベントをやっていたんですけども、ぱあっと眺めていて、その人たちがすごく輝いていたんですね。いろんな方が目を輝かせて、これから迎えるんだとやっているんですけども、じゃこれを誰が見ているんだろう、このすばらしいことを何人が見ているんだろうと思ったときに、これは、ここに今マスコ

ミさんいらっしゃるんですけども、一地方紙で賑わしているだけのレベルの問題じゃないと。これは全国に発信しなければいけないというふうに自分が思って、いろいろ検索したときにたどり着いたのがパブリックジャーナリスト、市民記者ですね。

ちょうど2002年ですか、慮武鉉（ノ・ムヒョン）さんが逆転で大統領になられたんですけども、そのきっかけは市民記者、一般市民が記事を投稿していった、それが市民活動のムーブメントが起こって慮武鉉（ノ・ムヒョン）さんが当選したという流れがあるんですけども、そんな手法を使って、自分も半年から約月に1本ずつ、技能五輪に関する情報を発信をしていきました。掲載先はライブドアニュースとヤフーニュースです。

それぞれ掲載をされまして、一番最終的に技能五輪の開幕の日、成果としては月に1本ずつ上げていましたから、多分信頼性もあったと思うんですけども、お昼のトップ記事に当たったんですね。皆さんインターネットを検索されると、まずヤフーがぼんと上がってくると思うんですけども、そのトップ記事に「静岡県沼津市技能五輪国際大会きょうから開幕」と、その記事を書いたのは自分です。

その記事を書いて、実際ヤフーという形は見られる方がかなり多くて、1時間に約300万ペーパービューあると言います。なので広告数とすると1ペーパービュー1円ですから、約1時間300万ぐらい価値があったという。実際それで検索して見られている方もいっぱいいらっしゃるって、ああ、自分もやってよかったなと本当に思ったんですけども、自分もそこで何より感じたことを、それは沼津市民の、それは取材対象でもあったんですけども、「ごきげん沼津キャンペーン」というものを行っていました。

沼津市民の方々がお花を自分たちで植えたりとか、美化ウォークですね、きれいにしたりとか、いろんな選手たちをお迎えするに当たって、こういうおもてなしをしようという形でやっていたんですけども、本当にそのときのことは今でも忘れないぐらい、とてもすばらしいことでした。幾度か沼津市というのは輝いている瞬間があると思うんですけども、特にその4年前は自分ももちろん生きている中でそういうことがあると思うんですけども、特にその4年前のことというのはそうじゃなかったかなというふうに思っています。

国内外の人たちに喜んでいただくというおもてなしの心、皆さん持っていらして、そして自分のできることを、なおかつそれが自分の当事者意識として、自分を頼ることができる、依存してないんですよ、皆さん。自分のできることを自分なりに選手のためにやっていたらよかったんです。それが全部自分の意思を持っていてやっていて、活動されてい

たんですね。本当に何と申しますか、集大成というか、技能五輪の会場にももちろん自分も足を運んだんですけども、そのときにその会場だったりとか、華やかに、小学生たち一人一人がおもてなしの旗に記入をして掲げてあったんですね、千もの旗が。そういったものを見たときに、自分のまちってすばらしいなって本当に思ったんですよ。

こんなことができる素敵なまちが自分の沼津ということに本当に誇りを持ったし、自分もこの感動を逆にこれから誰かにも伝えていかなければいけない、そのようなことを思っ、やっていくうちに numazoo という中央公園で市民が憩える場を今、月1回ですけど開かせてもらっています。このような本当にすばらしいイベントというので、やっぱり感化されて動いた方ってすごく多いですよ。

自分、いろんな方とよく意見交換するんですけども、グルメ街道の渡辺会長なんかも、とてもそのときの感動を自分でよく熱く語るんですけど、会長もやっぱり「ごきげん沼津」という会社組織を掲げられて、その他ボランティア的に活動されてますけれども、本当に各所でお互いを尊敬し合って、進むべき道を時間差、平行移動でも構わないから、我がまち沼津をいつまでも自慢できる場所として再生できればいいというふうにおっしゃってくださるんですね。

本当に自分もそのとおりでなと思っていて、なおかつやっぱり類は友を呼ぶなんですよ。自分の周りにそういう方々がとてもいます。多分これはもしかしたら魅力の始まりかもしれないですし、魅力というのは交流していくうちにいろんな化学反応を起こすこともあると思います。今は小さな種かもしれませんが、これを続けていくことだったりとか、みんなが意思を持って後世へつなげていく、本当にそれぞれが当事者意識、自分たちの我がまちを、我が村を、そして意思を持っていきながら、それを固めるのではなくて緩やかに、ほどよい個人主義と申しますか、緩やかな中でつるし合うことなくできれば、自分の街は明るくなるんじゃないかなというふうに活動していると思います。

なので自分の街を誇りに。失礼します。ネタとして富士山ですね、こうやって自分のまちを誇りに思って、楽しく過ごしていけば、きっとまちって楽しくて生き生きしてくる、それが活性化につながるんじゃないかなって思っています。なので下を向くのではなく前を向いて、みんな楽しく沼津の未来を歩んでいければなというふうに思っています。以上です。

< 発言者 6 >

こんにちは。沼津アーケード名店街で刃物屋をやっております。

私どもの商店街では毎月1日に1日市というのをやっております、そのところで6年前から朝市というのをやっています。この中でもいらっしゃったことがある方もあると思うんですけども、6年前は十数軒でした。それが現在は60軒弱のいろんな野菜を売ったり、たい焼きを売ったりとか、花を売ったりとか、本当に今は出たいという人にお待ちいただいている状態です。

そのときには僕も朝の6時半に商店街に行って、その仕切りをやっているやしのおじさんなんですけれども、ここ2~3カ月本当にたくさんのお客さんに来ていただけるようになりました。きょうここに来れたのは、その御褒美かなと思っているところもあるんですけども、ぜひ1日、アーケード名店街に来てみてください。普段人通りのないアーケード名店街とは全然違った風景がそこにはあります。

商店街のことはそういうことなんですけれども、今の沼津に対して、発言者5さんは今すごく夢を語ってくれたんですけども、本当に沼津の地盤沈下というのをこの2~3年感じています。というのは仲見世の通行量、ほかの商店街のことだからいいじゃないかとおっしゃるかもしれませんが、劇的に仲見世の通行量が落ちています。それから空き店舗率、これも仲見世の空き店舗率がものすごく高くなっています。

先日女房がマルサンに本を買いに行ったときに、熟年の御夫婦、多分沼津の方じゃないと思うんですけども、マルサンのところまで来たら、「あっ、ここでもう商店街ないの？」というふうにぼろっと言って、またイーラdeの方に戻っていったというんですね。だからそれから見ても、何かの方策をまちとしてしなければ、沼津というまちがだめになってしまうような気がします。

私の店の横に今はNPO法人SIDAM（NPO法人 駿河地域経営支援研究所）という形にかわりましたけれども、7年間まちの情報館というのがございまして、今はNPO SIDAMにことしの4月から変わりました。7年前に来たときには、うちの商店街の空き店舗率40%ぐらいあったんですね。それが現在はほとんど空き店舗ございません。昼間見るとちょっと閉まっていると思うかもしれませんが、やっぱり夜の御商売のところもありますので、そういうところは夕方からシャッター開くものですから、そう見えるかもしれませんが、一部大家さんに問題がある店以外はほぼ空き店舗はなくなりました。

大家さんに問題がある店にお世話すると、あとトラブルが嫌だものですから、でもこの空き店舗率ほぼゼロに近づけるために、私ども役員が大家さんとお話をして、7年前ぐらいから5年ぐらい前まで、一生懸命家賃を下げる交渉をしたんですね。当時のアーケードの人たちは、大家さんが要するに坪1万円で貸したい。ところが坪1万円なんか価値ないわけですよ、要するに人が歩いていませんから。それを5000円とか6000円とか7000円とか、徐々に下げてくださいことによって、やっと今のこういう状態が来ています。

僕が店に戻ってきたのは、ちょうど30年前なんですけれども、そのときにもう人通りがありませんでした。今のアーケードの店というのは、僕らしぶといんですけれども、お客様に来ていただくような特徴のある商売をはっきり言ってしています。うちも包丁の研ぎが修理だけで月に200丁、12月は500丁研ぎます。あとはアンティークのオーディオ、それまでは白物家電を扱っていた電気屋さんが、真空管のそういうオーディオとか、60年代、70年代のレコードを売ったりとか、割り切った商売をしないとうちの商店街では生き残れないんですね。何かの形の特徴を持たなければ僕らは生き残れませんから、一生懸命やっているつもりです。

それに付随するんですけれども、さっき発言者5さんの方から技能五輪の話が出ましたけれども、技能五輪が終わった後、うちの店忙しかったんですね。ドイツ人の応援に来た方とか、それから選手を応援に来た方、それからあとはフランス人の若いシェフが包丁を買いに来たりしてくれました。なぜこんな話をするかというと、僕は今回進めてくださっているコンベンションセンターに対する期待感が非常に大きいんですね。やっぱり普段沼津のまちというのは流入人口というのはほとんどないわけです。それがやっぱりコンベンションができることによって、いろいろな場所からお客さんをお迎えることができる。それに対する期待をすごくしています。

全然話が変わるんですけれども、よさこい東海道、皆さん御存じでしょうか。ことし15年目を迎えます。8年目から10年目まで僕実行委員長を務めていましたが、10年をもって実行委員会をある事情で離れました。そのときはアーケード名店街の演舞場の責任者をやらせていただいています。けさの「沼津朝日」にも載っていましたが、「ぬまづ熱風舞人」というチームが、高知のよさこい祭りの本祭が終わった後もう1日ありまして、そこで全国大会というのがあります。その全国大会で最優秀賞を取りました。これは彼らも一生懸命やって、本当にその15年目の成果かなというふうに思っています。

それと毎年ここ7～8年、「とらっく」というチームがあるんです。これ高知のチームなんですけれども、高知県トラック協会、このチームはアーケードで最後のトリを務めてくれて踊ってくれているんですけれども、そのチームがことしの高知のよさこい祭りのやっばり最優秀賞を取りました。これはよさこい東海道に対する15年目の御褒美かなというふうに感じています。

踊り子さんだけで3000人以上の人が沼津のまちに集まります。観客を含めるとすごい数なんですけれども、はっきり言ってお祭りは商店街にお金は落ちません。いいところは飲食とホテルです。そういうところはすべていっぱいになります。僕が実行委員長をやっているときに一度土曜日大雨が降りまして、土曜日のお祭りができなくて日曜日のときがあったんですけれども、そのときにいっぱいになったところってどこかわかります？昼間。カラオケボックスとボーリング場です。というのは、3000人以上の人が行くところがないわけです、もう踊れないから。だからそういうところがいっぱいになるんですね。だから祭りは商売になるんですけれども、実際に商店街にはお金は落ちていきません。

最後に私どものエリアでは今、沼津市さんの協力を得て、再開発の計画を進めています、ときどきマスコミに載るものですから、僕自身もすごく期待はしていますが、去年の日経「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」をおとりになった西郷真理子先生、この方は四国の高松の丸亀町商店街の再開発をやった先生なんですけれども、50年の定期借地による低層の再開発をやっています。ただ、その丸亀町商店街というのが、沼津で言うと仲見世みたいな場所なんです。うちみたいな場末の商店街じゃないわけです。うちともう一つ根本的に違うのは、その丸亀町商店街が駐車場収入だけで年間2億円、うちの商店街はゼロです。そうなので、知事にはぜひこの再開発にお力添えをいただきたいと思っています。長くなりましたがよろしくお願いたします。ありがとうございました。

<発言者5、発言者6に対する知事コメント>

発言者5さんと発言者6さんはとても仲のいい御関係のようではありますが、大変お二人とも、何と申しますか人のいい方で、ですから今までお話しなされた方と、またタイプが違って、例えば発言者4さんなんかは、こういう青年のような人との付き合いはありますか。余りないんじゃないですか。(笑)

この方は、よく情報発信して、しかし一方で沼津で技能五輪があると。そしてまた自分の住んでいる原町というのを含めた沼津市をむちゃくちゃ愛しているわけですね。そして

そこに人が来ると、それをいかにして歓待しようかということで、そのためには燃えるわけですよ。ですから土をいじっているわけじゃないですが、コンピューターいじっているんですが、ただそれは確実に沼津にとって役に立っているんですね。そういう人と結びつくということが可能なわけですよ。だから発言者4さんの農園も、発言者5さん、見たことありますか。近所ですか。しょっちゅう知っているわけですか。

<発言者4>

すみません、発言者5さんのうちの親戚の田んぼを、知らないうちにうちが作っていました。(笑)

<知事>

あっ、そういう御関係で。ですから近所付き合いしたいけど、何しているかは必ずしも知らないという場合に、ものすごい大きな仕事をされていると。その何百万人という人がアクセスするようなそういうサイトをおつくりになったことがあるということで、そして今、その愛情の気持ちを3776とTシャツの上に数字が書いてある。自分は富士山だと。3776、わからない人のために、お腹をめくると富士山が見えるという、私実はさっきそれをいただいたんです。これはLサイズなんですけど、実を言うと私はLLサイズでありまして(笑)、それはともかくといたしまして、そういうそれを発信したいという気持ちに溢れている。

それはやっぱり地元のことをいろいろ知っていただくとその発信源になる。だから私は発言者4さんのところもそうだし、それからそうですねエコ運動、発言者1さんのところもそうしたものと結びつく運動になるでしょう。それから発言者3さんの消防のこともね。ですから違う業種というか、違うことへの情熱が二つあると、さっき発言者5さんは化学反応という言葉が言われましたけれども、わあっと広がるわけです。そうした出会いも今実は行われつつあるのではないかと思います。

そして今最後に御発表いただきました発言者6さんは、いわゆる商店街の活性化に取り組まれておりまして、それはもうお父様がしっかり仕事されているから、こういうことができるんじゃないかと思うぐらいですけども、ともかくすばらしいお店でございまして、博物館みたいな包丁屋さんでございまして。

そしてそれが商店街を活性化させるために自分の店のこともさることながら、商店街全

体、あるいは仲見世も含めて、沼津の商店街をどのようにして活性化するかということについて、沼津だけでなく、高知県のどこではどうなっている、どこそこのところではどうなっているということについての情報をお持ちなんですね。そしていいところをとってきて、それを自分のところで生かしていくというそういう発想をお持ちです。それからまた地元で大家さんとの関係で、店子がなかなか入らない、あるいは出てきつつあるときに、みんなの代表として交渉して下さって、結果的に大家さんにもちゃんと、出ていかれてしまえば家賃が入りませんから、そういう形で両方の利益になるということを説得力を持っている、こういう人物がすごく大事なわけです。

ところが一方でコンベンションセンター、これもつくればいいというものじゃなかったと思います。あのコンベンションセンター、最初書かれていた図を御覧になりました？あれ市と県が一緒になってやるということだったわけですがけれども、ホテルをつくり、それからコンベンションがあつて、そしてマンションをつくって、そういう図があつたんですよ。「マンションを何でつくるんですか」「マンションを売って建設費を浮かせる」と言う。「それ以外に何か理由があるんですか」「いや、別に」と言うわけですよ。

それで、「君、それは沼津に対して失礼だ。沼津の玄関口につくる、そういう大きな施設じゃないか。浜松にはアクトシティがある。そして静岡にはグランシップがある。それに匹敵するものをつくるのに、どうしてそんな、これで若干の建設費が浮きますというふうなことを考えるのか。沼津と言えど何ですか。」「そうですね、何でしょうか」なんて。「千本松原があるでしょうが」「あっそれはそうです」「そういうコンセプトがこれに入っていますか」「いや、そんなこと考えていませんでした」「それを考えてください」というところからきたんです。

そしてそういうふうなものを地元の方とやりとりをしながら、地元を愛している建築家の方と、それからまた業者さんが工夫をして今できつつあるわけですが、しかしそのコンベンションに来るということは、人が来られることだと思ふ。これはいわゆる交流人口ですね。定着人口ではない、交流人口が来る。で、その交流人口がどういう動線で動くかということについても、この発言者6さんは調べてあるわけです。

こういう人がいるというのは大変重要なことでして、交流人口が来る、コンベンションセンターでイベントが終わったら、その後どうするか。あるいはよさこいで大きなお祭りが終わった、その後空いている時間をどうするか、これを考える必要があるんですよ。だから建物つくったら人が来るという、だから建物つくりましょうという箱物行政を超えて

いるんですね、この人は。一方、この発言者5の青年はそれを発信する力がある。この二人が組み合わせるとものすごく強い。

で、あなたは原町、発言者6さんは沼津、何となく沼津と原って仲悪いと思っていたんですけど、この二人見てすごく安心しました。ですから、ともにそれぞれの地域を通じながら、全体沼津、これを日本の顔として発信したいと思われているということで、私は先ほどのどこがいいですか、ボーリング場とカラオケに来るんだ、その理由はほかに行くところがないからと。じゃどういうふうになれば、その人たちが楽しめるか。そしてよさこいに来る人は元気のいいお嬢さんとか若者が来るわけですから、それはもうめちゃくちゃ食べるに違いない。それからまたデートコースでもいいでしょう。

あるいはデートでなくても、そうするとコンベンションセンターに来たとき、しかしここは何といっても沼津だと。それじゃ海へ行こうかと。そうすると港の方に行く道、これをどのようにアレンジするか考えているか、考えてないか。それから、着いたときに何が見えるか考えているかどうか。着いて、どこに行くというのが一番最初に来た人が考えることだからです。あそこの水門ですね。水門だけがあるだけで、あとは何も連絡がないじゃないですか。あの高さ、魚市場のところのあの高さ、出られますでしょう。寿司を食って外に出ますね。これ中見ても、そこからずっと回れないでしょう。

新鮮館つくったと。デッキに出る。デッキの向こうに何が見えますか、壊れかけの倉庫じゃないですか。そんなもの見て楽しめますか。しかも必ずしも水がきれいじゃない。そうすると、そのデッキは上につくった方がいいじゃないか。上につくって、ずっと回せば千本松原も見えるし、御用邸公園も見えるし、海が見えるし、ぐるっと回って、そこに何かロマンチックな雰囲気をつくっておけば、その下で漁師さんが釣ってきたものすごいものを上ではおしゃれな形で料理して食べられるということも考えられるでしょう。つまりそうした構想をこの二人なら持っているわけですよ。そうしたものに材料を提供する人が、例えば農産物については発言者3さんみたいな人がいるわけです。

だから私は、全体の人々の動線を、交流人口として人が来るときに、どのように動くであろうか。このあるときの検討、あるときの時間だけでなく、それを全体、時間の流れとして考える。どこに止まるか、すごく高いところに止まる人と、比較的簡単などところに止まる人と、それをどのように分けたら、わかりやすくまちの絵が書けるか、そういうふうなことをお話を伺っていると想像できます。言い換えると、ものすごく発展の余地があるということなんですよ。まだそれが十分に開発されていないのではないかというふう

に思いますね。

だから仲見世も発展の仕方が可能性としてあるとおっしゃっている。そしてまた名店街も、商店街の方も、今はうまくいっているけれども、コンベンションセンターができたからといって、すぐにそこが活性化するとは限らない。ではどのようにすればお互いに益するようにできるか、恐らくお考えがあるに違いないと思いますけれども。そうした可能性を二人の話から感じた次第でございます。

<発言者3>

失礼いたします。先ほど知事がこれを示されて大瀬岬とおっしゃったんですが、これは実は戸田の御浜岬でございます。かくゆう私は戸田の出身だものですから。

それで実は私どもの消防団は、地域の皆さん方といかにして接点を持つかという大きなテーマもございまして、実は駿東支部と申しまして、小山、御殿場、裾野、長泉、清水町、沼津と、駿東6団で一緒に行動している部分があるんですが、実は今月の26日でしょうか、下田の方で東消連（とうしょうれん）と言いまして、東部消防連絡協議会というのがございます。それに駿東支部の要望事項といたしまして、「消防団とあらゆる防災団体のコラボレーションについて」ということで、今要望書を出したいなと思って検討して、結果的にこれは決定をしているところなんです、それにもしかしたら自衛隊、警察も含めて、防災関連団体と年に数回、やはり話し合い、訓練その他をしたらどうかというような今取り組みをしているところでございます。

それともう一つは、実は東北の方で我々消防団の仲間が250名ばかり殉職をいたしまして、それで実は当沼津市も消防団員の意識がかなり低下をしているところです。実は知事にもお出ましを願って、9月の11日でしたでしょうか、静岡の消防学校のグラウンドで県の総合大会がございまして、それにもやはり出たらいいのか、やめたらいいのかというような話もあったんですが、結局やっぱり出てこそ消防団だと、そのような経緯もありまして、なかなか消防団員確保にやはりつながるんですけども、何かだんだん、ちょっと寂しい状況かなと思っているところです。以上です。

<発言者6>

すみません、言い忘れました。私のお店の5軒隣にiPadが使えるカフェM103というものがオープンいたしました。きょうの午前中も熟年の方が10人ほどiPadを使っていた

んですけれども、うちのお店を手伝ってくれている70を超えている伯母が今回 iPad を買いました。というのは、要は検索をするのに、文字検索を打つことができないんですね。iPad の一番の特徴というのは音声検索ができます。iPad の端に例えば「刃物店」というふうに叫ぶと、そのままグーグルで検索することができます。これはすごく、ちょっとお年を召した方が使うには非常におもしろいものだと思いますので、その iPad の使い方の教室もやっていますので、もしよろしければ、うちのNPO法人SIDAM、あるいは iPad のカフェの方へいらしていただくといいと思います。

さっき発言者5さんがちょっと自慢していましたけれども、僕もホームページを持っていて、パソコン持っていらっしゃる方、「刃物店」でお帰りになったら検索してみてください。多分、ヤフーもグーグルも一番上にうちが出てきます。ここまでののに7年かかりました。以上です。

<発言者3、発言者6に対する知事のコメント>

どうも、戸田御出身の発言者3さん、大変失礼いたしました。戸田というのは国際的ですからね。ですから、消防団として危機感をお持ちになって、他の防災組織、例えば自衛隊というふうにおっしゃって、私はこういう発想がすばらしいというふうに思います。これは自衛隊というと、ドンパチをやる軍事組織だと、軍隊だということでアレルギーを持つ人が多かったんですけれども、しかしながら御承知のように、静岡県全体でこれまでのいろんな訓練、それからまた阪神・淡路大震災以降の特に自衛隊の方々による御活躍があって、恐らく本県ほど自衛隊と地域コミュニティの関係が調和している地域はないのじゃないかというふうに思います。

そして防衛と防災というのは相並ぶと。もちろん不測の事態でどんな戦争行為があるかもしれない。そのために国を守らなければなりませんけれども、一方、いつなんどき、あるいは毎年のように襲ってくる天災があると。そうしたときに最も厳しい訓練に耐えているのが自衛隊であると。次は消防団ですね、あるいは警察というのがございますが、その自衛隊には最終的に一番厳しいときにやってもらわないといかん。例えばこの間の台風9号が来たときも、小山町の道が陥没したわけです。それでもうぱっと来て、鉄板敷いて、人が通れるようにしてくれた。それは自衛隊ですよ。

ですから、この間も自衛隊が東日本に行きました。そのときに自衛隊といっても若い人が多いですから、その奥さんがまだ小さな子どもを抱えている。奥さんも働いている。と

なれば、その子どもをどうするんだということで、御殿場市と小山町の町長さん、市長さんはお子さんを預かる協定をされたんですね。そうすると、自分の子どもは大丈夫だということで、自衛隊員は向こうで一生懸命救援活動ができるということがあったと。それくらい関係がいい。

ですから、そうした全体の背景があって、今発言者3さんがおっしゃったように、消防団と、やっぱりこういう本物の武器を持たない形での防災活動での協力関係というものをやるというようなことも考えたかどうかと今おっしゃって、もったもだと思っています。

私はさらに進んで、ちょっとここでは問題になっていませんけれども、福島第一原発がまだコントロールできてませんね。そうしたのも5カ月以上たっているわけですから、もし浜岡原発でそうした事故が起こったときに、中部電力の持っている技術が東京電力の持っている技術より上だと思われますか。私変わらないと思いますよ。ですから似たようなことが起こると、5カ月以上収束ができないということが起こりかねないということです。

そうしたときに、チリの銅山で下に閉じ込められた人たちをどこが助けるかといって、全世界に募集しました。チリの銅山は御承知のように世界で一番です。ですから銅山技術、鉱山技術はトップクラスなんです。そこが世界中の人たちに助けてくれということで競争するような形で、最終的に全員が救出されたわけです。ですから我々は、原発も含めて平和利用なわけですから、そこに自衛隊も、あるいはアメリカ軍も来ても構わんとすら思っているわけです。

だから大事なことはいかに事故を最小限にするか、減災ですね。災害を減らすという、そこがポイントですから。ですからそのためのありとあらゆる手段を使わなくちゃいけない。そのうちの一つが例えば消防団と自衛隊の共同ではないかというふうにおっしゃっているんで、考えさせてください。それで恐らく自衛隊の陸自も空自も、そうしたことについて前向きだというふうに思っております。

今度は8月28日に自衛隊と、去年は座間の、私知らなかったんですけども、座間からアメリカ軍が訓練に参加してくれたんですよ。ことしはもう頼むことにしまして、陸自とアメリカ陸軍と一緒にやってくださいと。それから海兵隊もオブザーバーとしてやってもらって結構ですと。これは、もしものときに初めて顔を合わせたのと違って、前に1回お目にかかっていると、あるいは土地勘がそのためにあると。1回訓練のときに行ったけど、あんまりきれいなので休暇のときに遊びに来たというようなことだってありますでしょう。土地勘を持っていただく、それから知り合いができるということが信頼関係の基礎

なわけです。

ですから、私は消防団も今、従来の消防団員のパターンでは、もううまくいかなくなっています。企業のお手伝いや、あるいは学生さんの参加も考えなくてはならないぐらい、消防団が今人数が著しく高齢化もしているということがあります。しかし、やっぱりその9月11日ですか、それへ出るとおっしゃったのは、そこはいいですよ、さすが団長。やめるのは簡単ですから。もう団長一人になっても出るつもりで、それが士気というものを上げるというふうに思います。あの団長がやっていたから、次の人もやっぱりやらなくちゃいかん、そういう志の継続というのがあると思います。そんなことでございました。

それから発言者6さんのiPadなんていうのは、発言者6さんはなさいますか。

<発言者6>

僕はiPadを必要としてないです。

<知事>

いやいや、おばさんが使っていますか。

<発言者4>

少し言わせてもらっていいですか。私ね、本当はね、この中にいる誰よりも一番先にコンピューターとか電気自動車、それからテレビ電話を使った人間だと思います。というのは、40年前の大阪万博御存じですか。そのときの情報通信課に勤務していました。でも、今はすべてできません。電気自動車は運転できるかもしれないですけどね。何かパソコン、ワープロの時代はワープロ使いましたけど、パソコンの時代になったら、娘が「お母さん、危ないから、絶対やっちゃだめ」、そう言われて、携帯電話使っても、「携帯電話もね、よけいなことやると大変だから、ただ電話だけ使ったら」、それからもう毎日草取りと虫の消毒に追われまして、すっかりそういうものは忘れてしまいました。ですから本当は、かつて情報通信課でそういうものを見たということが恥ずかしくて言えないぐらい、今は農業一筋です。

<知事>

そういうふうに若い人は年配の方を追い込んではいならないということですね。ですから

やっぱり使い勝手が悪いということを皆知っているんで、一番使いやすい、例えば携帯とか電話だけにしましょうというような、付随的な機能はやめておきましょう。そういうことと、それからまた一方で使いやすいようにどうしたらいいかということの工夫も、日本人ですから、相手のことを考えて一生懸命やりますので、ですからそういう思いやりが形になっているという面もあるので、私はやっぱりこれは発言者6さんというキャラクターが、やっぱり親切だから、おせっかいだからという、本当にもう嫌がらないように、おもしろいねというふうにする、そういうやっぱりキャラクターですよ。

だからいろんなキャラクターがいて、私はこういう iPad を使うことによって、おばさまの元気がまた出ておもしろいよねということになって、しかもそうしたことで情報を検索すると、何か甥っこの店はすごいんだなということで、また甥っこのさんに対する尊敬の念が増します。そういう媒体になって、人との新しい交流関係ができるということでございます。

私は日本の技術は最先端のもので、しかも沼津には、きょう冒頭で申しましたように、世界一の技術があります、コンピューターの。文字どおりコンピューターで世界一です。世界一は、きょうグラフ見せてくれましたよ。もう5年で追い付かれるんです。5年で500位ぐらいになるんです。500ぐらい会社がばあっと来るんです。それより先に行かなくちゃいけない。それを続けてきているんです、あの富士通は。

そこを見に来てくれと言っていました。見に行かれました？いつでも歓迎ですって。ある程度団体で行かれた方がいいと思いますけれども、向こうがその方が効率的になるから。そこにやっぱり会社に対する自信があって、池田さんという優れた技術者の展示館がございました。彼が最初につくったFACOM128Bというそれがそこに展示されております。それはやっぱり日本そのものですよ。日本の歴史そのものです。

もともと富士通は足尾銅山をやっていた古河市兵衛の興した足尾銅山、それが古河銅山になり、古河電工になり、そして富士通の会社ができたわけですね。そして最初はシーメンスからいろいろ技術を提供していただいております、あるときにぱっと自分で抜いてしまうわけですから。ですからそれは見ているだけで感動がありますし、ああいうそういうところが富士通にあるんだと。

一方、戸田だって、つくったことのないプチャーチンのヘダ号ですか、あれをつくって帰して差し上げたんですから。ですからここには漁師でありながら、あるいは農民でありながら、いろんなところにある技術は私は、例えばお茶づくりとか、米づくりにおいて発

言者4さんがなさっておられるのは、そういう富士通がやっている最先端の技術に匹敵するようなお茶づくり、あるいは米づくりをされている。

だからそういう最先端の技術がここにいろいろな形でばらばらにあると。これをどのよう結びつけるか。結びつけると新しい結合ができると、これが発言者5さんの言葉で言うと化学反応を起こして、わあっと力を持つんです。ですから私はやっぱり仲良くすることが大事だというふうに、和です、足し算です。それと調和の和ですね、ハーモニー。この日本の「やまと」とも読むこの和というものをこの地域ほど大事にして、それが役に立つといたしますか、しかも人づくりがそれが一番根本だというのを、一体農園のお茶はここで献茶式をなさるか。江原素六先生を記念して3月になさるとおっしゃったでしょう。だからそういう人を大事にしていると。若山牧水記念館もごきます。

そうしたものを大事にする気風というのはどこから生まれるかという、私はこの風土が生んでいると思いますね。富士山を前にしていい加減なことができないということじゃないでしょうか。それからまた富士山を見る景色を見て、ここを汚しちゃならないということになるんじゃないでしょうか。ですからその風土が人をつくっていると、風土が人の心をつくっていると思います。そして最高の富士山を見るから、やっぱり最高のものというふうに自然に心の中にそういう形ができて、それが技術になったり、あるいは農作物になったり、あるいは消防団における志の高さになったり、子供たちをそういう立派な子供にしようというような、こちらにお越しになって、お母様として子供たちを育てようというそういう気持ちになるんじゃないかと思います。だからやっぱりこの風土の形が人の心をつくり、その心がそういう技術を生んでいるんだということを今つくづく感じた次第でござます。

<発言者5>

今は化学反応という形でお話しさせてもらった中で、自分もさまざまなものを、情報発信のことを先ほど説明させていただいたんですけれども、今までウェブの情報発信ということで、今現実の世界で一番情報発信伝えやすいのは、やっぱりフェイス・ツー・フェイス、マウス・ツー・マウスなんですね。なので顔を合わせて情報発信をしたいという形が、numazooという形はそういう形を目指してやっているんですけれども、最終目標はやっぱりまさに人が交流している状況、人が歩いている状況、交流人口というお話がありましたけれども、何かそういった状況が必要なんじゃないかなと思って、フェイス・ツー・フェー

ス、公園から情報発信という形をさせてもらっているんですけども、新しいことをやっていくということは、やはり既存のルールではなかなかできない部分というのは、やはり出てきます。

そこら辺で出てくるのは信頼関係だったりとかすると思うんですけども、皆さんのところに、お手元に numazoo のチラシを入れさせていただいたんですけども、その講演の中のタイトルで「春風火舞」って出ていると思うんですよ。ファイヤーパフォーマンスです。皆さん知っていますか、公園って火気厳禁なのは知っていますね。火使っちゃいけないんですよ。なので本来だったらいけない行為になってしまいます。

でもそこら辺というのは、やはり自分たちの誠意だったりとか、お話しさせてもらっていく中で、市の方に協力いただいて、これならいだろうという形をもらって、初めてルールを超えた部分がやはりできて、そこで初めて多くの人に感動してもらう。実は春風火舞隊なんていうのは、ケアマネさんたちですからね、ケアマネさんたちがおじいちゃん、おばあちゃんたちを喜ばせるために火を使ってパフォーマンスをしようと、40人ぐらいの方なんですけれども、それをそれだけじゃもったいないから公園でやってよという形で、実際公園でやるようになったんですけども、そういった形でルールを壊していくという形が必要になってきます。

今ほかに自分関わっている中でナイトマーケットというのを今やっています。プレナイトマーケットという形で、まだ仮なんですけれども、月に1回、商店街で食事をする。ただ食事会みたいなものの延長線なんですけれども、なぜナイトマーケットとかというとタイのマーケットのイメージがあって、そういうふうに通りの中でわいわいしながら食べているだけでも、まちは賑わっている雰囲気もできるし、みんなも楽しいし、なおかつその主催者、自分は主催者じゃないですけども、主催者の方の願いの一つに、先ほど発言者6さんが言われたとおりで、お祭りって儲からないですよ、商店街が。商店街が儲からないお祭りってどうなのという部分もあった中で、じゃ自分たちがそれだったら商店街の人たちに人に歩いてもらって行って、テイクアウトで物を買ってきて、戻ってきて食べようという形がナイトマーケットの姿であります。

本当にそのたった一言なんですけれども、それも化学反応が起きているんですね。じゃ普段テイクアウトしないお店はどうやってテイクアウトさせてみようか。てんぷら屋さんなんて、自分の発想でもって、カップに石を入れて、その石を温めておいて、てんぷらが冷めないようにしたりとか、みんなそれぞれ工夫を持ってやり始めるんですね。

そういったすばらしい機会がだんだん生まれてきて、最初本当15人か、仲間うちだけで始めていったのがどんどん、どんどん増えていって、今は100人を超え始めてきて、先週の木曜日またやったんですけれども、そうした中で、通りの中で過ごしていく。なのですけれども、実はその通りも上土商店街って県道なんですよ。県道で実際その通りで何かをやるとなると、許可がやっぱり本来は必要な形になります。じゃ実際そのルールどおりにやったらどうなるかという形になると、とてもじゃないけど開催できないですよ。ゲリラ的にやっちゃっている部分があって、どうなのかなというところもあるんですけれども、前回もそんなこともあって、その通りから外れた私有地でやりました。

次回はどういう形にしようかというのも、また今度仲間たちとまた話し合っただけなんですけれども、やっぱりそういったときに、またお願いを一応します。お願いするんですけれども、そのときにどうぞ信頼してもらって、何かやっぱり初めてやることって、何もかもがどうなの、何かまずいんじゃないのかということ、どうしてもまずいとなるとルールで固めていってしまう。そうすると物事っておもしろくなくなってしまうんですよ。新しいものが全部できないですね。なので、そこは安心してもう一步踏み越えたところで話をさせていただいて、じゃ何ができるのか。できるための理由探しというものをお互いに積み重ねていかない限り、新しいものはできないし、いいものはできていかない。

なので、ぜひそういった意味で、またナイトマーケットを来月、一応9月の29日、どこでやるとは言いませんけれども、やっていますので、そういったときに、どこでやっているから協力を得て、うまくできるのかどうかというところはあるんですけれども、ぜひ信頼していただいて、若い源というか、種を信頼していただいて、応援していただければというふうに思っています。

< 発言者1 >

私たちの塩満のまちでは、地産地消というのを今やっているんですが、非常に3年間、こういうことに取り組んで、もう既に農協の方に出すまでもなく、地元でそういうものが売れているということで、非常に安心安全というのを消費者が望んでいるのではないのかなということで、これもまた先ほどの発言者4さんじゃないですけど、後継者の問題含めて、やはり高齢化してきていますから、そういう地産地消がいつまで続くかなという心配がございます。

県の支援事業としてエコファーマーというのがあると思うんですが、こういったエコフ

ファーマーも、ただ登録だけではなくて、もう少しそういう後継者も含めて、そういう支援事業というものを真剣に考えていただいてやっていき、農業の活性化というのを図っていただければ、もっともっと地元もそういったことに対する運動も、活動もしやすいというふうに考えます。そういうことでぜひそういったエコファーマー含めての支援事業というのをもう一度考えていただきたいなというふうに感じています。

<発言者4>

私今、市の男女共同参画推進員をやらさせていただいています。それで、農村女性は今の男性よりも、もっと活発に今動いております。例えばNPO法人で田舎のヒロインネットワークというのが全国にありますけれども、2年に1度東京の早稲田の会場で集会を開いておりましたが、ここだんだんまた年とってしまいましたので、若い学生たちが、それを法人の中に入って、世代が交代しましたけれども、今回の大地震のときも、全国に散らばる農村の人たちを助けるために、もう動き始めています。

それから雪印の牛乳のときも、1株運動というのを持ちまして、代表の方が雪印の株主になって、いろいろな監視役みたいなことをしています。だから農村女性は結構頑張って動いているんですが、男性の方たちはちょっと、なかなか自分の仕事が忙しくて、そういう余裕がないというのも現実です。昔のイメージとは違う農村女性の動きも少し知ってもらいたいと思います。

<発言者5、発言者1、発言者4に対する知事コメント>

発言者5さんが新しいことをやるのに抵抗勢力が多い、あるいは大きいという意味のことを言われました。私自身が言ってみれば既存のルールを知らないで、いきなり県知事室に入ってきたわけですね。ですからまあ周りの人は大変です。実は周りの人が大変ということは、私も大変なんですけど、ですけども大きな目的は何かというと、県民のために働いていることで、それが理屈がきっちりできて、そしてこういう手段でやるということであれば、ルールというのは人のためにあるので変えられるというふうに思っているわけです。

そのときに今、発言者5さんは信頼が大事だと言われました。やはりそれですね。この地域コミュニティができていけば、私はルールはついてくるというふうに思うし、やっpegらんと、栗原市長などはおっしゃってくださいますよ。あるいは県議の先生方もそういうことについては、むしろ俺が保証する、私が保証するというふうに言ってくださ

るに違いないというふうに思いまして、私は抵抗勢力の側ではなくて、発言者5さんの側に立つ者だということをここに高らかに宣言をしておきたいというふうに思います。

それから発言者1さんが地産地消でエコファーマーのことを言われました。農業は後継者がいない。一方で、いわゆるミスマッチといいますか、仕事を求めているところと、それから仕事をしたいという青年たち、これがうまく合っていないんですね。一方、仕事がなく失業している人、あるいは就職できないまま卒業せざるを得ない人、あるいは何らかの形で失業してしまって、新しい職場に行けない人たちがたくさんいます。ですから、私はその一番後継者がいないと言われている農業に僕は未来があると思っているんですよ。そういうふうに信じているものですから、第一次産業を重視したいと。

ただし、従来のものにかわっていくといっても、戻ることはできませんので、こういう新しい時代ですから。ですから今、発言者4さんがかつてはコンピューターの最先端に行くハイカラな女性であったということですよ。ですから今自分自身はもう1回そこに戻らなくても、そういう人たちが周りにいますから、お嬢さんでも、お孫さんでも、それと組んでやるというような新しい試みをすることによって、案外農業というのは新しいハイカラで、安心で、そして周りに緑があった方がそういう住まいの方がしゃれているというふうになるのではないかと思います。

そして、そういう意味で発言者1さんがおっしゃったファーマーは、一つの新しいカタカナになることによって、ハイカラ性が出てきていますし、21世紀はエコの世紀ですから、農業、それから漁業、あるいは林業にそういうフロンティアがあると信じております。

発言者4さんが男女共同参画と言われました。そして男はまだ気付いてないとおっしゃったわけですね。発言者の皆さんを見てください。4対2じゃありませんか。私と進行の支援局長を入れると6対2ですよ。これはよくない。つまり女性の支援局長がいないんですよ、今。もう西部も中部も東部も、それからこの地域もみんな男です。これはおかしいでしょう。しかし知事公室というのがありまして、知事公室のトップは全部今まで男だった。今は誰でしょうか。女性です。ですからここもやはり3対3ぐらいにならないといけないと思いますね。

そして女性は今「農ギャル」などと言われて、農業に出てくる人もいますね。やっぱり自分で作ったものを自分で好きなものを栽培している、好きなとき取って、収穫して食べるというのは最高の喜びだというふうに思いますけれども、それともう一つは、やはり農業すると手が汚れるとか、あるいは汗もだくだくになると。そうすると今度、それを楽

しむときに、今度はおしゃれできて、そしておしゃれ感覚でまた楽しめるという場所もあった方がいいと思うんですよ。ですから私は今この沼津に必要なのはおしゃれだと。

その額縁はこの駿河湾、あるいは港、戸田、そして富士山、愛鷹山、これを見て、この額縁としては最高です。こんなものをお金で買えますか、つくれますか。つくれないです。これはもう天からの授かり物です。こうしたすばらしい額縁の中で人の生活が営まれている。そこにももちろん普通の長靴で来るというのもよしと、一方でハイヒール履いたり、あるいは少しおめかしして、そして行けるような場所もあっていいと、そういうバラエティに富んで、しかし私は今沼津に欠けているのはおしゃれだと思います。

そして女性がおしゃれができるというそういう喜びを与えると、それが男性の女性に対する私は敬意だというふうに思っていますし、それは県庁でも一緒です。もう県庁でも、部屋に入ったら時計があるだけです。今はそういう部屋はもうありません。県庁にはいろんな贈り物があって、それが倉庫に仕舞い込まれていた。それを仕舞い込まれていれば死蔵しているのと同じだから、出してくださいと。きょうここにきれいな花瓶に飾られていますね。これだけでも大分違う。ですから、写真があるなら写真を飾ってください。

飾るときにも、何でもいいから飾るというんじゃなくて、大きさを同じにするとか、富士山なら春夏秋冬を飾り分けるとか、ちょっとしたことですけれども、それをそうですね、あそこに知事公室長の隣に県の部長さんたちが並んでいます。あの人たちに言ったってできやせんのです。それを女子職員の方に「あなたに頼む」と言ったら、翌日からもう全然違う。ですから、埋もれている能力というのがあるということが確実に私は身の回りでわかっております。

特に沼津はコンベンションセンターができる、それから新しいインフラ整備もこの間ずっと進んでまいりました。そして今沼津港、そしてファルマバレーですね、こういう医療から、食事から、ここに新しい21世紀型の自然と調和したすばらしい技術センターであると同時に、自然を大切にする文化が育つセンターになり得る、そういう場所ではないかというふうに思っております、しかも向こうの方、中部と西部はそれぞれもう既に政令指定都市ができてますでしょう。ですから、新しい違うそのコンセプトで、この地域の連携ができる、ちょうどきょう見てまいりましたミルキーウェイのような10の市町が一緒になってすばらしい景観のところに、非常に社会的に弱者でしかあり得ないような方々がお世話をいただいている、こういうことができるというところだというふうに思っております、それを確かめるために公式訪問だけで26回、きょうで27回目ですが、6月、

7月も来ていますので、もう30回を超えているかと思えますけれども、そういう理由で
ございます。

何とぞ沼津の皆様方、期待をしておりますので、皆さんの返す刀で「請う御期待」とい
うふうに言っていただきたいと思います。どうもきょうはありがとうございます。
ます。

<傍聴者1>

御指名ありがとうございます。知事におかれましては、本当に東奔西走、モンゴル、沖
縄と、もう大変な中を沼津に来てくださってありがとうございます。

きょう本当に場違いだから、あえて発言は抑えておきますけれども、やはり去年の2月
に原地区について特化したお話、鉄道高架の問題というものは、静岡県が一番大切な問題
だという認識のもとに、お出ましくできました。

今現状はどうかと、御存じのとおりでございます。交通基盤部、その流通に特化した
論議だけで話が進んでいる。私はふじのくにの理想郷づくりというのは、流通だけではな
いと思っております。この知事がおっしゃる地の力というものを生かしていくということ
で、むしろそれを壊すような事業は、世代の責任として見直していくべきだと思ってお
ります。

なぜかと言いますと、鉄道高架とか、貨物駅の問題とか、原地区の問題を論ずるときに、
所管の部を交通基盤部から外していただきたいと思うんです。交通基盤部長にしても、局
長さんにしても、前は霞ヶ関のキャリアの職業キャリアです。どうしても地の力とか、ふ
じのくにに対する思いというのは、私たちとはまた違うと思うんですね。それはしようがな
いんです。そしてしかもその交通基盤部の所管である限りは、流通のことしか言わない。理
想郷であるにもかかわらず、その理想郷を破壊していくということ認識しないんですね。

それは見方が違うと言われれば、ともかく政府でも原子力問題を扱っていたのが通産省
関係だったということの問題が今出てきております。この問題を扱うのはやっぱり幅広い
複眼的な、モノカルチャー的なものじゃなくて、複眼的な目で検討していただきたいと思
います。

さっきの大地への回帰ということも、農業関係の問題も保証し、自然の方の問題もあり
ましょう。ですから単眼的な見方で御判断なさらないようにしていただきたいと思いま
す。以上、よろしく願いいたします。

<傍聴者 2>

きょうは知事にお会いできて、とても参考になりました。ありがとうございました。

私は沼津市平沼というところに住んでおります。私のうちの裏には、茶畑には新幹線が通り、畑には東名が通っております。その上を見ると、平沼という地名はわからないかもしれないんですけども、ちょっと上を見ると東海大学がそびえ立っています。

私たちの生活の中で東海大学ができたてのときには、うちの庭にも東海大学の学生寮をつくり、周りの人たちもワンルームのマンションを建てたりしながら、頑張っておりました。しかし今見ると本当にそこも全部空き家になっていたり、どうして生活をして、借金をして建てたマンションなど返していったらいいか、いろんなことを考えている人たちがいっぱいおります。

そして、やはり文化を考えた中で、やはり学生がいる沼津市というのも、すごくいいんじゃないか。そして三島の新幹線に乗るときを見ると、今度は日大三島があのように駅前に大きく建っている。そしてせっかく渡辺朗先生が学校にいたときに、やっとの思いで東海大学を持ってきてくれた。そんな思いを私たちは地元で考えております。どうにかしてこれからの東海大学を利用できるような、そういう施設なり、ものを持ってきていただけたらと。もちろん今、市長もいるので、そして知事もいるので、そして沼津には渡辺周先生もいたりするので、よく考えていただきたいなと思っております。以上です。

<傍聴者 3>

先ほどの発言者 5 さんですか、技能五輪の方では、私市の委託で P R 部会長をやらせていただいております。どうもありがとうございました。本当に技能五輪はすごかったなと思うし、皆さんのお力と思っております。

で、知事に御質問なんですけど、知事さんのお話を聞いていて、本当にすごい、なるほどなと思ったのは、先ほども言っていたように、沼津は本当に風光明媚で、いろんなところにいいところがたくさんあると。栗原市長さんがほどよい田舎ですかね、田舎というか、要するにそういう環境のいいところがいっぱいあるよと。ただ、ほどよい都会というところが、ちょっと弱いんじゃないかなと。先ほど発言者 6 さんから何か話がありましたように、商店街にシャッター通りが増えている、そういうところも含めて、今いろんな開発が入り混じっております。

で、その開発が具体的に、戦略的に進んでいるんですけども、先が見えない。それとグランドデザイン、目的が、もう前にはしっかりあったと思うんですけども、それがはっきり、また市民の方に伝わってきてない。当然時代も変わって、どんどん次から次へと新しいことが起こっております。今先ほど西の方の話も出ておりました。沼川の問題も出ておりました。いろんな問題が沼津の中で、問題じゃなくて、素晴らしいこれからインフラ整備ですね。

私インフラ整備というのは、この沼津の人口、東部の拠点としてやるには、まだまだ不足しているんじゃないかなと思っております。ですから、何十年先の孫子の代までというのは、やはり道路というのは市民がつくれなくて、民間がつくれなくて、そこを今行政の方々が前向きにやっていたらいいので、それを知事さんが理想郷という形で、今本当にうたっていたらいいので、それを具体的にビジョンとして知事さん、県の方で推進していただくビジョンを市民にも、県民にも東部の拠点として発信していただければと思うんですけども、その辺をぜひとも知事さん、先頭になって理想郷、この東部、沼津を拠点地域として、ぜひともよろしく発信をしていただきたいと思います。以上です。

<傍聴者4>

すみません、知事さんをお願いします。何かきょうこのような会議に出席して、とてもいい話が聞けて、何か夢を持てたなって、沼津市に生きてて夢を持てたなっていう思いでいっぱいなんです。ちょっとこここのところ、新聞紙上をにぎわしているんで大きい声では言えないんですけど、恥ずかしいんですけど、里親をしています。

知事さんに一度どうしてくれ、こうしてくれじゃなくて、里親家庭の話一度聞いてほしいなって。もし沼津へいらっしゃることがありましたら、私のうちでいいですから、5分でも10分でもいいですから、話を聞いていただけたらなって。静岡県で第1号として、社会福祉第2種社会福祉事業ファミリーホーム21年度から認可になりました、その第1号として今子供を見ているので、ぜひ寄っていただいて、私の話を聞いていただけたらなって思うんです。どうしてくれ、こうしてくれって、今この時間にはもったいないからほかの方に譲りますけれども、よろしくお願ひします。

<質問者5>

私6年前まで東京に通っていました。新幹線で、ちょうど1時間10分ぐらいで着いやいます。神田なんですけれども、その神田の本社に勤務してまして、サラリーマンですから、5時半に終わると安い飲み屋へ行って飲むわけですね。そうすると、あそこは千代田区なんですね。千代田区神田というところなんですけれども、新橋よりか安いんですよ、実は。サラリーマンと学生のまちなんです。金曜日までは忙しくて、土日はものすごく暇なところなんです。

それで神田の商店街の人たちが飲んでいるところへ私、隣に座りまして、それで話を聞いていたら、もう東京都や区に対する愚痴ばっかなんですね。愚痴のオンパレードなんです。それで神田は本社とかいっぱいあって、こんなにすごい税収入があるのに何もやってくれないんだと、ほかのところへ全部回っちゃっているということを彼らは言っているわけです。そうして、こんなところに住んでいても先がないし、子どもはいないしと、そういうことの愚痴を言っているわけですよ。

それで、じゃ沼津へ来ませんかと、東京から沼津までちょうど1時間ちょっとだから、どうですかと。あっそれはいいと。ところで沼津ってどんなものがあるんですかと聞くから、富士山が見える、それはいいと。駿河湾があって、千本浜があって、釣りもできるしね、そういういろんなことができるし、ヨットハーバーもあるしということをしたんですよ。それはいい、それはいいというふうな話になったわけです。

これ調子いいなと思ひまして、ある日市の市長の斉藤さんのときですか、私斉藤さんに提案したんですよ。沼津は思い切って東京都千代田区沼津にしたらどうですか、合併しましょうと言ったら、「ええっ」と言って、それで黙っちゃったですよ。ときどき最近散歩がてら会うんですけど、彼は目がいいので、100メートル先から私を見つけると、よおっなんて言って、それですれ違っておしまいなんですけれども、それくらい大胆な考えをしないと難しいんじゃないのかなという気がしています。

いろいろ話はあるんですけれども、一つだけということなので、そういうことで、沼津はよく努力すれば、いろんな形で東京に出かけるんじゃないかと、東京の人を引っ張ってくるという発想に変えてください。それが大事です。

ほかには大学をつくる、医療大学、それからもう一つはソフトウェアの大学です。東京にあるようでないんですよ。何々学部、工学部ソフトウェアというのはいっぱいあるんですけれども、ソフトウェア専門の学校というのは大学ではないんです。で、ソフトウェア

をやっている人というのは、大体うんと集まるんですが、うんとやめちゃうんですよ。ものすごい苦しい勉強するんですよ、肉体的にも。それで癒しがないんですよ。沼津に來れば癒しがいっぱいあるからいいんじゃないか。それはいいじゃないかという話もあります。

そういう先端を重んずるというわけじゃないですが、医療大学とか、ソフトウェアの大学をつくって、若い人を引っ張ると。1時間ぐらいだったら東京都内の人だったら普通なんです、通勤通学の時間としては。ぜひ配慮していただきたいなど、このようにお願いする次第です。

<質問者6>

沼津の開北地区に住んでいます。素人の意見ですみませんけれども、沼津は政令都市を目指した方がいいと思います。沼津に土日や休みのたびに関東地方のたくさんの人口の方が伊豆の方を目がけてこられますけれども、素通りの方が多くて、もっと、そうですね、自分にも言い聞かせているようなものなんですけれども、皆さんもっと一流を目指すというか、あそこの沼津にぜひとも行きたいって、関東ばかりじゃなくて、世界の人も言うような、そういう沼津を目指して来ていただきたいと思います。

それで今度大河ドラマで平清盛公をされるんですけれども、沼津には六代御前という平家物語の最後に、その六代御前が首切られて、それで平家物語は終わるんですけれども、平家の跡取りさんがいらしたりもして、あと今若丸さん、義経さんとか頼朝さんの兄弟の方のそういうお墓もありましたり、それから東大寺の平清盛さんの息子さんの自害したという伝説の、それは本当かどうかはわからないけれども、私は信じていますけれども、そういう場所とか、いろいろ歴史的なものもありますので、そういうのも生かして皆さん積極的に全国からも沼津が注目されるような一流のまち、静岡県で注目されるように、皆さん一人一人が頑張っていければと思います。それで県の方々にも御協力よろしく申し上げます。どうもありがとうございます。

<傍聴者に対する知事コメント>

御質問を6人の方からいただきまして、ありがとうございました。冒頭の御住職、お久しぶりでございます。私は原町が二分されているのを非常に憂えております。そしてまた貨物駅のこと、それが沼津市を分裂させかねないということも憂えておりまして、ただ貨物駅についてなんですけど、ここ数十年、あるいは20年といってもいいと思いますけれ

ども、例えば汐留というのは何であったのか。ものすごい大きな場所ですね、あれ貨物の操作場でしょう。あるいは大阪駅に北ヤードというのがありますが、梅田駅のところですが、それはもう再開発されました。何でしたか、貨物ヤードなんですよ。

日本のあちこちを御覧になれば、かつて貨物線が走っていたところに新しい路線ができたりしているんです。ですから、貨物駅それ自体について、全国の中で見直すべきときが来ていると、基本的な認識を持っております。ですから、そもそも論と言うとおかしいですけど、これは貨物は物流ですから、物流について知識を持ってないと、これについて意見が言えないんですよ。それがございますね。

それから原町に仮に貨物駅を移す必要がなくなった場合に何だったらいいかと。先ほどの平沼にお住まいの女性の方が、あそこに東海大学が渡辺朗先生によって持ってこられたと。例えばそういう大学であつたらいいと、あるいは病院であつたらいいとかというふうな、そういうコンセンサスはできますかね。つまり、この土地はこういうものであれば似合うというふうなプラス思考ですね。

私はこの間、お目にかかったときには、昨年の春にお目にかかったときには、貨物駅は困るけれども、福祉施設ならばとかというような声も上がっていました。そこで最高のものは一体何なのか出してください。これだったらいい。だって土地を譲っている人がいるんですから、絶対譲らないという人もいるんですから、だから何だったらいいかと。

それから2番目の御質問、東海大学の方に、私は選挙中からお目にかかりに行っているんですよ。もう学生募集をやめるとおっしゃって、じゃ私がいい提案を持ってきたならば、それ譲ってくれますかと。「おお、いい提案、例えば」、もちろん医科大学のことを言いましたよ。「ほお、どこかね」「これから考えます」そのときですからね。ですから、そのときから私にとっては、今はあそこは新東名からすぐそばでしょう。ですから場所の位置が原町から遠いというんじゃないくて、新東名から便利というふうにもなっています。

そしてお気づきかどうか知りませんが、あのあたりにうちの県庁の役人がいろんな人を案内しているんですよ。どうですかと。いろいろ可能性を探っております。今下宿する人がいなくなっているという状況はありますけれども、一方で、なるほど日本の学生にとっては不便かもしれないと。しかしながら例えばジャイカが援助しているような70カ国ぐらい開発途上国があります。そういう人たちが来ると楽園ですよ。すぐそばに鉄道の駅がある。鉄道すらもない、沖縄だってモノレールができたの、この間じゃありませんか。鉄道に乗ったことがない人がずっといたわけですよ。そういうインフラ整備というのが

全然ないような人たちが見たら、ものすごく便利なんですよ、実を言うと。ものすごくきれいなんです。

ですから見方を変えると、ああいう場所は必ず生かせると思っておりまして、今それをすぐに言えないのが残念ですけども、せっかくのああいう、耐震性のある建物は一つしかありませんが、あとの建物は残念ながら取り壊さなくちゃいかんかもしれない、建て直さなくちゃいけないかもしれない。しかし運動場もあるし、見晴らしもいいし、そんなにアクセスが悪いわけでもないというわけですから、あそこは生かします。そのつもりでやっていますよ。

それから片浜から来られた方が青写真を書けと。私は青写真がかつてあったというふうにしてもらったが、私はそんなものはまだ十分じゃないと。高次都市機能があったらいい、そのことだけじゃありませんか。本当にもっと具体的な、例えばここのお二人が言われたような、一つ一つの具体的なまちと人の動線とを描いて、私自身が一番問題だと思っているのは、もちろん南北の交通が高架の方が楽でいいですよ。だけど、まちの人が、あるいは都会から来た人が沼津駅に降りて、そして沼津のやっぱりビューポイントの一つは港ですよ。そこの港のあの内港ですか、あそこの青写真すらできてないじゃないですか。

私は魚市場の方に、彼がいろんなことを言うから、「あなたは世界で一番いいところはどこか知っているか」と、「どこだ」と言うから、これは例えば元は汚い石炭港であったウエーズというところの、いわば地方のトップであるカーディフというところがあるんです。そこがものすごくすばらしいウォーターフロントになっている。あるいは門司港だって、あんな汚いところだったのが、今はもうデートスポットになっている。見に行ったんですよ。イギリスまでですよ。また門司港ですよ。そういうやる人がいる。だけど、青写真全体ができていない。

だから、私は静岡文化芸術大学のデザイン学部はそのためにつくった。彼らにデザインコンテストをすればいい。そのデザインコンテストでデザインどおりやるかどうかは別だけれども、いいデザインだということを皆に見せて、そしてこの沼津の駅と港を幹線ですよ。来た人はともかくそこへ行けるといふふうになれば、まちの人だって喜ぶし、そこに生活空間にもぎわいを取り戻すから、そのデザインコンテストをしたらどうですかと言ったって、まだやらないでしょう。デザインコンテストで1等賞とったら、その人に干物か何かあげればいいんですよ。ね。表彰状と、それだけでも大変な名誉です。つまり私はまだもつとなるほど、絵が書けるような青写真ができていないと思わない。私はそれが描

けるように歩き回っているわけです。

ですから一見、三十数年間やってきたとかおっしゃるけれども、東静岡だって一緒ですよ。この間まで私と前市長とがちゃんばらしていたでしょう。東静岡の市が持っているところにアリーナをつくれとか、こちらは住宅ゾーンだ、こちらは情報ゾーンだ、それしかない。じゃそれが具体的に人がどう動くか。ここは住宅ゾーンだと、高い高い建物をつかって、その後ろにいる人たちは富士山が見えなくなっちゃう。そういう本当に人が生活するといつて、またまちの人たちがここをどう動くかという動線もしっかり考える必要があるんです。そういうふうな意味でのデザインができてない。

ミクロの目とマクロの目と両方持ったデザインが今必要とされている。1回大きなお金を使ってしまうと取り返しがつかないことがありますので、私は集中的に今その考えるときが来ていると。P Iなんかやったって、そういうふうにする人はいないんですよ。単なる材料です。材料ですよ、それ。生活する人たちのためにやるんですから。ですからともかく仕切り直しというふうにする必要があるというふうには思っておりまして、しかしそれは駆け足でやっていきます、皆さんの意見を聞きながら。そういう意味でランドデザインについての必要性を持っているのは同じであります。

それから里親のことは、今大変御立派なことをされていると思います。ああいう不幸なことになりましたけれども、里親制度それ自体は素晴らしいことであると思います。敬意を表します。またいつかお聞かせくださいませ。

それから東京都千代田区沼津市、千代田区沼津市じゃちょっとおかしいな。ともかくここをそういう大胆な発想で、神田の人が愚痴を言いまして、こちらは自慢する人、あるいは誇りを持っている人、何とかしたいというそういう使命感に燃えている人が多いので、その意味では人の心においては、圧倒的にこちらの沼津の時代に移っているというふうに言えますね。それはやっぱり私は何よりも財産で、御自身自身がこちらを自慢して、神田の連中にこちらに全部移ってもらったらどうかというぐらいのそういう気持ちはうれしいことだと思います。

そして大学ですね、ソフトウェアの。これはそうなんです。私は若者というのはまちの飾りだと思います。ですから若者のいないまちはどこか殺風景です。ですから若者は最低4年いる、場合によっては医学だと6年ないしそれ以上いるというところをつくりたいということで、そのために場所と、そして相手機関というのを、今なかなか進みませんが、自分なりに一生懸命やっているところでございます。同じ考えでございます。

それから最後に世界の中の沼津にしたいと。例えば政令市というもう少し大きなまとまりを持った方がいいんじゃないかと。賛成ですね。政令市というのを目指す必要が、政令指定にとられる必要はありませんけれども、三島も、あるいは長泉も、あるいは周りの地域のよさをネットワークで組みながら、お互いに行き来が自由にできるような、私はそうしたものの一つの成果がフィルムコミッションもそうだし、それから今回のミルクウェイもそうですが、まずそういう連携できるところをしっかりと育てていって、この地域全体の東部の魅力を上げていく必要がある。

そして沼津は他の地域と違って、名称それ自体がネームバリューになりますね。場の力、あるいは土地の地の力といいますか、それを持っているので、これを発揮できるのだという確信を持っております。そのためには青写真が要る。それから旧来の計画も、ひょっとしたら計画の中のある部分にとらわれているんじゃないか、そもそも論からやると。初めて新鮮な目で見ても、この魅力をどうしたらいいかという観点から見る。で、大きなお金がかかるやつと、小さなお金で、あるいは知恵だけで済むところもありますから、ですから私はできるところからやっていくのが必要だろうと。大きなものにお金をかけるについては、大きな知恵が要ります。

ですから今、きょうここでうちの連中などは、右と左と、あるいは前と後ろで分かれて、つかみ合いのけんかになるんじゃないかと、「その覚悟して、知事、ここに立て」とか言われていたのです。さすが沼津です。そういうふうなことは全くありません。皆思いはものすごく深く、それは愛情によって全部それを、違う思いはお互い地域の発展のために考えてきたことだということで一致しているので、それを武器にして何とか「さすが沼津」と言われる、そういうものに変えていきたいと思っております。

私はさし当たって地域を分裂されている杭を抜くために外部の力、そういうとげを抜くために、しばらくさらに力を注ぎますので、皆様方も本当にいい形がどういうものなのかと。これは要らないとか、けしからんとかと言う前に、ここの地域がどうなったときが一番いいかというポジティブな、前向きな要求をくださいませ。で善は急げで、それなら先にやろうということになります。そういうことをこの人たちがやっていると思うんですよ。それが合わさると、これは分裂の力じゃなくて和の力になりますから、そんなふうな思いでございます。

きょうは女性の御発言もフロアからたくさんございまして、また壇上からもお二人、それぞれ子育て、また農業で女性のおしゃれをここに取り戻すということが、そのきっかけ

になるんじゃないかというふうには思っておりますが、栗原市長、何とぞよろしくお願
いします。先生方もどうぞよろしくお願いいいたします。